

## 令和2年度 越前おおの観光推進委員会会議録

日時 令和2年8月4日（火）午後1時30分～3時25分

場所 結とびあ301号室

出席者 委員8人（欠席：嶋田委員）

事務局 安達課長、大久保室長、廣作企画主査

### 1 開会あいさつ（新井委員長）

この一年は新型コロナウイルス感染症により、我慢の年でしかない。何かをやろうと期待しても駄目な年と感じる。そのような状況でも観光客は動きたいという気持ちを持っており、我々はその手立てを考えていく必要がある。そのために各団体の方は苦勞していると思う。大野市で元気に動き回れる何かを作り上げていくことが我々の使命であると感じている。そのための知恵や意見をいただきたい。

### 2 協議事項

#### （1）令和元年 観光入込客数について

資料1で事務局が説明

#### 【質疑応答】

長野委員 今年の入込の数字は出ているか。

事務局 まだ出していない。

#### （2）令和元年度 越前おおの観光戦略ビジョンの取り組みについて

資料2で事務局が説明

#### 【質疑応答】

長野委員 2021年までの観光入込客数や宿泊者数、観光消費額の目標値を掲げているが、昨年度の実績から、その目標値を達成するのは難しいのではないかと感じる。達成するために具体的にどのようなことをやるのか、もし計画があれば教えて欲しい。大野市では、バスツアーなどを誘致し数を稼いでいると感じているが、宿泊を伸ばして観光消費額を上げる取り組みが弱いと感じる。宿泊に向けた取り組みはどのようなことをやっているか。宿泊事業者に対し、食プランの研修やメニュー開発をしていただくことが大切と思っている。あわら温泉と違い、個々の施設における競争力はない。宿泊を伸ばすためには、一泊二食付きで旅館で食べていただくこともありだが、お客が自分の好きなものを食べていただくためにまちなかの飲食店と連携していくことが必要と思っている。

事務局 宿泊を伸ばしていくために、星空ハンモックなど夜における体験メニューの造成に取り組んでいる。また、来年度開駅を予定している道の駅からの回遊性を高めるための取り組みを行っている。回遊性が高まり、滞在時間が延びれば消費額は伸びると考えている。そのため観光体験メニューの造成を今年度行っている。今後はコロ

ナを常に考えながら、どのような観光の在り方がいいのかを検討し、来年度に向けた様々な観光誘客の企画に取り組んでいきたい。

清水委員 自分も2021年の目標値は難しいと考える。ウィズコロナかアフターコロナかは分からないが、今年いろいろな仕掛けを作っても県外移動が規制されると思う。状況は変わるかもしれないが、規制があることを前提とした対策を考えておいた方が良い。最近「マイクロツーリズム」という言葉が使われているが、まずは30分から1時間圏内の県内の方に対する観光対策を考え、次に首都圏を含めた県外、そして海外となる。2、3年後にならないと本当の需要は動かないと思う。直近、嶺南までの観光PRや施策をやるべきと思う。

コロナにより、日々内向きの生活を強いられている。観光にとらわれず大野型の自然暮らし、そのようなコンテンツを提案されると良いと思う。首都圏を通じて移住者が増えている。改めて大野の自然と一緒に作り上げられたライフスタイル自体が新しく価値を持ってくると思っている。

近場の人をどのように誘客するか、ライフスタイル・体験型の観光の分かりやすいメッセージをどこに、どのように発信していくかを考えていただいた方が良い。また、コロナ対策を明確に出した方が良い。

道の駅からの周遊性については、かなり戦略を組まないと難しいと感じている。

新井委員長 コロナでライフワークが変わってきている。都会の若い人たちが田舎に行きたがっている現実がある。都会にいらなくてもテレワークで仕事ができる。田舎では自給自足的な取り組みができ、今が絶好の機会であると捉えられている。大野で生活してもらうための何らかの施策が出来ないかと思っている。大野には空き家がたくさんある。それを無償で貸し出すなどして、人口減少対策を行うことが出来ないかと考えている。また、道の駅が出来ると、そこで大野への来訪が終わり、大野の活性化を妨げるものになってしまう恐れがある。今、コロナで動けない間は、この先の状況に対してどのようにしていくべきかを考えていく期間であると思う。

事務局 マイクロツーリズムの取り組みとして、現在、7月23日から県内在住で市内に宿泊された方を対象に「おおのまるごと満喫キャンペーン」を実施して誘客促進を図っている。この事業の取り組みを参考として、来年度に向けた観光体験メニューの造成を行っていきたいと考えている。

空き家を活用した取り組みについては、今年8月から赴任された地域おこし協力隊と連携しながら進めていくこととしている。

宮内委員 道の駅について、企画をしっかりしないと落とし穴にはまると思う。三国の道の駅は地元の客と観光客で支えている。自分たちがどのような形で、道の駅に参加できるのか分からない。

コロナの状況の中で、宿泊施設の形態やお菓子屋さんの企画など、次のことを勉強すべきだと思う。

- 長野委員 ホロッサを活用した教育旅行パッケージを県で誘致をしていきたいと考えている。体験施設を活用していくために旅行会社や学校に対する助成を市で考えているか。
- 事務局 市で教育旅行のバス助成があるため、これを活用することができると思う。また、滞在型企画旅行助成があり、団体がバスで来ていただき、市内で体験をしていただくバス1台に対する助成などがある。この事業は旅行会社の商談会でも好評となっている。
- 田中副委員長 結ステーションに長時間、バスを止めてはいけなため、城下町東広場駐車場に誘導しているが、六間通りに東広場への案内看板がないと思う。JR越前大野駅まで行ってしまったバスがいる。
- 新たな土産品や商品開発で、昨年、商工会議所がすこサイダーを販売した。昔は大野には雪人形の置物や馬の一刀彫などがあったが、もっこの会などに投げかけて、食べ物ではない木工のお土産の商品開発はできないか。
- 春の桜開花時期に、亀山や有終公園、義景公園にぼんぼりを設置しているが、かなり老朽化し古めかしい。観光協会で修繕または新調できないか。
- 事務局 城下町東広場への案内看板については、今年度も門型案内看板の設置を予定しているため設置の検討をしていきたい。木工の土産品の開発については、もっこの会や和泉地区の木工作家の方に投げかけていきたい。ぼんぼりのリニューアルについては、観光協会と協議しながら検討していく。

### (3) 令和元年度における商談会参加状況及び旅行会社等への営業活動について

資料3で事務局が説明

#### 【質疑応答】

- 葭安委員 商談会参加状況は参加した数値だけでは、その後、どれだけの成約があったのかや誘客があったのかは見えない。問題点などの検証が出来ない。令和元年度のビジョンの取り組みについても可能な部分の数値は出して欲しい。
- フォトコンテストで集めた素材や情報発信は十分に活用してほしい。
- 事務局 商談会に参加した後の効果を数値で表すことは非常に難しい。またメディアなどへ情報発信した後に、それによる誘客人数を把握することなども難しい状況である。なんらかの仕掛けをかければ分かるかもしれないが、分かる範囲で効果を数値で表していきたい。資料2の取り組みについても数値化をしていきたい。フォトコンテストについては、この事業により新たな観光素材の発見につながっている。また一部の写真は観光パンフレットへの掲載や、その他の場面で利用しながら大野の情報発信に活用している。
- 田中委員 コロナで市主催などのイベントが中止になっている中でも、ちょっとしたイベントを行いたいという事業者がいる。コロナ禍でイベントを実施するのは難しいが、少しでもまちなかの活性や購買力の向上のために市の支援をしてほしい。
- 事務局 コロナ感染を懸念し大きなイベントは中止しているが、経済活動もしていかないと

いけない。そのため、市では補正予算で小規模事業者が3者以上集まって行うイベントの助成を今月から行うため、活用いただけければと思う。

新井委員長 市内の菓子店舗がドライブスルーで大野のお菓子を販売したいと市役所へ相談したら、駄目であるとの返事だった。自分は出来る取り組み可能だと考えたが、市役所は形式にとらわれず、どうすれば出来るかをまず考えて欲しい。

出向宣伝に農林樂舎や大野屋の職員が参加しているが、現場の生産者なども参加すべきではないか。改善すべきと思うので考えて欲しい。

朝日委員 どうしたら出来るかをまず検討し、柔軟に市役所で対応できるように進めていきたい。数年前の出向宣伝には、米や蕎麦の生産者なども同行していた。また、各地の商談会については、農林樂舎と平成大野屋が一緒に行っていたが重なっている部分などもあり一度整理している。出向宣伝や商談会への生産者の参加については、生産者の負担や参加経費などを考慮しながら検討していきたい。

宮内委員 まちの活性化は民間が頑張らないといけない。観光協会が民間組織の意見を取り上げて、力を貸してあげて欲しい。

### 3 その他

- ・おおのまるごと満喫キャンペーンのPR依頼
- ・年内の各イベントの中止報告

### 4 閉会あいさつ（田中副委員長）

熱心な議論、提案をいただき感謝申し上げます。新型コロナウイルスが全国的に拡大しつつあり、観光に関わる者にとっては厳しい状況が続くと思う。それぞれが対応を取りながら、これからも取り組まなければならない。